

学校教育目標

「いのち」を大切にし、自分らしく前向きに生きようとする子どもの姿を実現する

「いのち」を大切にし=自尊感情

ここで言う「いのち」とは生理的で身体的な意味合いと生活的で心理的な意味合いの双方を統合したものであり、その子にとっての「健やかな体」を中心に「豊かな心」「確かな学力」についても内包する。また、自分の「いのち」を大切にすることとは自尊感情を意味する。

自分らしく生きる=自己肯定感

自分には自分のよさがあり、自分ならではの経験があるということを思ってよりよく生きようすること。

前向きに生きる=「願い」とキャリア開発

願いを持ち、新たなことに、あるいは将来の夢に向けて挑戦し、自己実現を図ること。

児童生徒が目指す姿 「願いを持ち自分らしく生きる」

- 自分 : 「いのち」を大切にしよう (心身の健康／自尊感情)
- 自分と人 : 「ありがとう」と言える人・言われる人になろう (自他の尊重／自己有用感)
- 自分と社会 : 「願い」を持ちチャレンジする人になろう (自己開発／自己実現)

学校経営目標

教職員の多様な資質・指導力に裏付けられた取組で、入院する児童生徒の教育を幅広く担うとともに、病院等関係機関との関係性を生かし、幅広く支援や理解啓発を推進していく。

多様な資質・能力に裏付けられた

様々な障害種別や特性に関する心理や教育方法、教育課程に関すること、医療や福祉の制度に関すること等、幅広い専門性やＩＣＴ活用等の技能をはじめ、これまで各自が培ってきた力や個性等

入院する児童生徒の教育を幅広く担う

様々な病気や背景をもって入院してくる児童生徒のそれぞれの特性に対応した教育を行う

病院等関係機関との関係性を生かし

医療や福祉とのつながり、多方面にわたる学校とのやりとりによって得られた専門性やネットワークを生かし、社会に還元していく

幅広く支援や理解啓発を推進していく

復学に向けた学習や支援（在籍校・原籍校と医療・福祉をつなぐコーディネートを含む）、復学後の支援、病弱教育に関する啓発等、全ての校種にわたる病弱教育におけるセンター的機能を果たす。

育成を目指す資質と教育方針

医療と連携した教育を推進する。指導・支援にあたっては、肯定的な態度で接して前向きな気持ちが持てるようになるとともに、学ぶ意味や楽しさがわかる授業を通して、学びに向かう力を高める。少人数指導やＩＣＴ活用等の特性を生かして知識及び技能を習得するとともに。プレゼンテーションや議論を含む探究活動等を工夫して、習得した知識及び技能を生かす、判断・思考・表現（コミュニケーション）の力を高める。

また、指導・支援を行うにあたっては、定期的にケース会議を持つなどして、病院、家庭、原籍校、関係機関との連携に取り組む。特に原籍校（前籍校）との接続を入念に行う。

自ら学ぶ力を高めるために

- 一人一人の学習状況とその背景を踏まえた基礎基本の確認と定着
- 「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」が実感できる授業の展開
- 多様な形態での主体的・対話的で深い学びの実践

自ら律する力を高めるために

- 自己有用感や自己肯定感などの自尊感情の高揚を図る
- 目的意識を共有し、互いに認め励まし合う集団づくりの実践
- あらゆる誹謗中傷やいじめといった人権侵害を許さず、人間の尊厳の大切さを実感できる指導の徹底

桃陽総合支援学校の重点

願いを持ち自分らしく生きる子どもの姿を実現するためのステップ

- | | |
|--------------------------|---------------------|
| ① どうありたいのかという思いを持つる | 見通しの確保、学びの再構築 |
| ② どうありたいのかという思いが行動に反映される | 積極性と自律、学ぶ意欲の向上 |
| ③ どうありたいのかという思いが結果に反映される | よりよい生活スタイルの確立、学力の向上 |

願いを持ち自分らしく生きる子どもの姿を実現するために何をどのようにするのか

＜カリキュラムマネジメントの視点から＞

- 児童生徒自身によるキャリアプランの発想
- 思考力・判断力・表現力を豊かにする言語活動の実施（作文やスピーチ、議論、プレゼンテーション）
- 全ての教科等におけるICTの有効活用による授業改善の推進
- 原籍校との交流学習の推進（行事参加型、ネット通信交流型、移行型）
- 個別の包括支援プランを充実させる（教育・医療・福祉・家庭の連携、ケース会議の充実）
- 個別や少人数での学びの利点を生かし、ICTを活用した教科指導の推進
- 学びに向かう気持ちを高める行事や発表のあり方を工夫するとともに、各教科と関連付ける

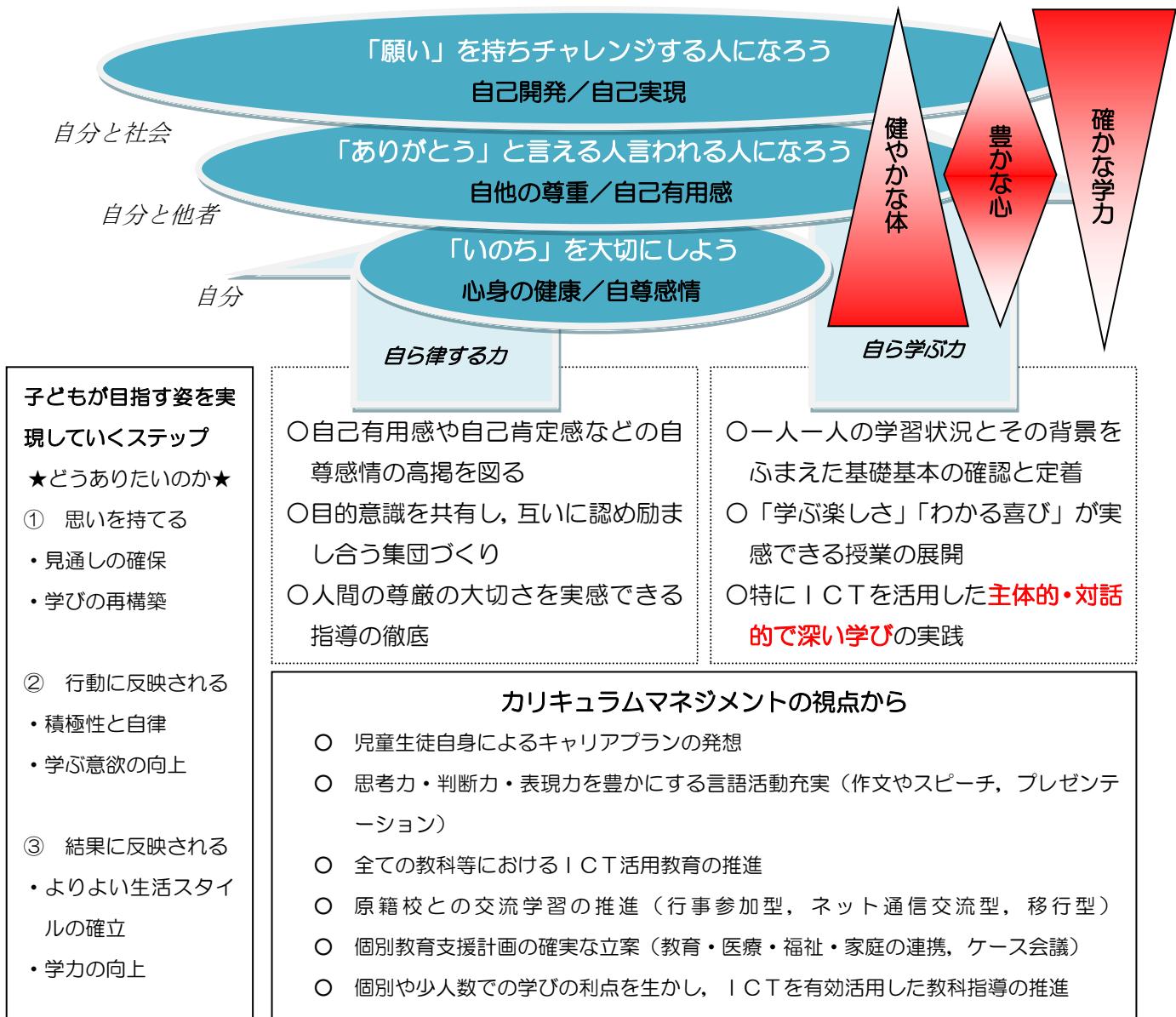
2019年度の重点的な取組

- (1) 総合支援学校教育課程編成要領による教育課程編成。
- (2) 創立40周年記念式典の実施。それにともなう記念誌「回遊路」の作成。
- (3) 分教室指導体制の改革。ICTを活用したBSでの学習のあり方や集団化の工夫を行う。
- (4) 京都市内各校種への入院児童生徒への支援やコーディネートについての発信の充実。
- (5) 小中学校の支部や、小中高の校内研修等で病弱教育の理解を進める研修を行う。
- (6) 病院・原籍校等とのケース会議に基づく個別教育支援計画を重視した「個別の包括支援プラン」の作成。
- (7) 退学時における、合理的配慮等の引継（必要に応じた復学先への支援を含む）。
- (8) ICTを活用しながら、主体的・対話的で深い学びを重視した授業づくり・授業改善を推進する。
- (9) 文部科学省「後期中等教育段階入院生徒等への教育保障体制整備事業」の受託を通じた高校生支援の拡充。
- (10) キャリア教育の視点に基づく自立活動の時間の指導の見直し。
- (11) 桃陽ならではの道徳科や小学校英語、プログラミング教育の創造。
- (12) 働き方改革の推進。
- (13) ICTを活用した合理的配慮のあり方を求める「魔法のプロジェクト」継続。
- (14) ピアカウンセリングを念頭においた児童生徒の心理的ケアの推進。

学校教育目標

「いのち」を大切にし、自分らしく前向きに生きようとする子どもの姿を実現する

児童生徒の目指す姿 「願いを持ち自分らしく生きる」



育成を目指す資質と教育方針

医療と連携した教育を推進する。指導・支援にあたっては、肯定的な態度で接して前向きな気持ちが持てるようになるとともに、学ぶ意味や楽しさがわかる授業を通して、**学びに向かう力**を高める。少人数指導やICT活用等の特性を生かして**知識及び技能**を習得し、学力の向上を目指す。プレゼンテーションや議論を含む探究活動等を工夫して、習得した知識及び技能を生かせるような、**判断・思考・表現の力**を高める。

学校経営目標

教職員の多様な資質・指導力に裏付けられた取組で、入院する児童生徒の教育を幅広く担うとともに、病院等関係機関との関係性を生かし、幅広く支援や理解啓発を推進していく。